精神神経疾患と診断されたもの28例中21例(75.0%)が完治し、4例(14.3%) がかなり軽快した。神経症と診断された181例中159例(87.8%)が完治し、9例(5.0%)がかなり軽快した。残る127例中111例(87.4%)が完治し、13例(10.2%)がかなり軽快した。加療が最後まで行えなかった19例中即日軽快例11例で10日以上経過観察できた14例(73.7%)はいずれも軽快していた。5例は通院中止となったが、理由は就眠薬服が馴染めないとのことで悪化例はなかった。

この結果中完全治癒とは、全ての愁訴の消失をいう。かなり軽快とは、平常はほとんど支障なく愁訴もないが、なんとなく不安が残っているか、開口または閉口時にわずかにクリック音を発する程度のものをいう。

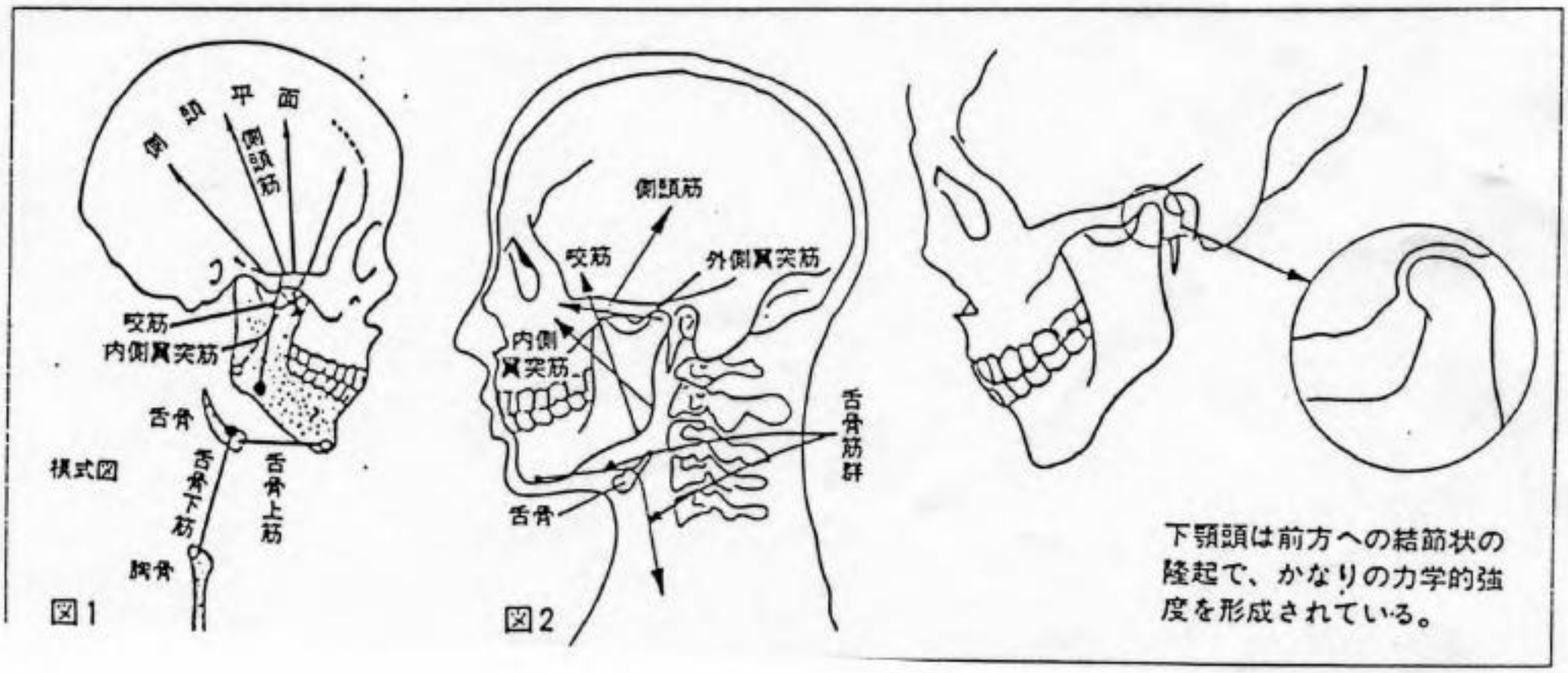
以上のことから336例中完治291例(86.6%)、かなり軽快26例(7.7%)で、全体の94.3%という高率で回復する結果になった。このことは、TMJ

よしだ かんじ

1954 熊本生れ
名古屋大学
大学院前期修了
現在 日本構造医学研究所所長
付属医療センター 院長
著書 構造医学セミナー教書
(構医研編)1981
構造医学の原理
(基礎編)1988
論文 上位頸椎性不定愁訴に対する
整復効果について
(日整九連学会誌No.12)1983

日本構造医学研究所を主宰し、医師、工学者、化学者、東洋医学系臨床研究者総員20名の所員をかかえ、特に重力応用医学、直立の機構要素、歩行と身体機能、健康と体力向上の歩行様式開発、交通外傷の応力解析による客観的診断法の確立、人工関節の適応要素、身体の情報伝令新機構の意義と必要性、出産後母体症候群の発生阻止、重力反応場における精神作用、といった研究解明、局所冷却療法の開発、そして毎日100人を越える外来患者の対応に、さらには講演にと奔走中である。

症候群が現医療現場でいかに理解されていないかといったことのみではなく、医療現場の対応によって多くの医原病が発症している事実を如実に知ることとなってしまったのである。そこで顎関節の運動におけるバイオメカニクスを構造医学的解析を基に概説することにする。

顎関節開閉のメカニズム

顎関節は、摂食動作、飲み込み、言語発生、あ